

## 「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」AQUA (Asia-Kyushu Advanced Medical Network)活動報告：第2巻

清水, 周次  
九州大学病院

中島, 直樹  
九州大学病院

<https://doi.org/10.15017/8301>

---

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 2, pp.1-96, 2006-04. AQUA事務局  
バージョン：published  
権利関係：



## 1. はじめに

平成 17 年度版として、AQUA の活動に関する報告書の第 2 号をお届け致します。国際テレカンファレンスの数は今年度も順調に伸び、平成 17 年度末現在で計 58 回を数え、毎月約 2 回のペースになります。APAN 医療グループとより積極的に連携することにより、上海交通大学、国立台湾大学、台中荣民総病院、シンガポール大学、タイマヒドン大学、オーストラリアのアデレード大学にも新たな回線を確立することができました。技術的には患者のプライバシーを守るためのセキュリティーに関して国際的に共通する IPsec を採用し、これまで国により輸入が制限されていたなどの問題点をクリアすると同時に、この技術を多地点での国際ライブデモに応用することにも成功しました。またアジアへの積極的な展開の中、4 地点の接続ではどうしても物足りなかった現状を、DVTS で直接 10 地点を接続してこのニーズに答えられる準備が整いました。これらの活動はまた本年度開設された AQUA のホームページで詳細にご覧いただけるようになりました。

しかし一方ではいくつかの問題点も解決されなければなりません。最も基本的な問題として、各医療施設で活動できるスタッフの問題があります。事情は大学・病院により様々ですが、常に医療スタッフとエンジニアが共同して働ける確かなシステム作りを推し進めて行かなければなりません。同時に APAN を核としたアジア医療ネットワークチームの組織・体制作りや各国の役割分担・国内医療ネットワークの展開計画も非常に重要です。技術的にはアジアに存在する NTSC と PAL をいう異なる映像フォーマットを区別なく扱うことの出来るシステムの構築が望まれます。またハイビジョンを使用したさらに高画質の伝送も、今後必ず考慮しなければならない問題です。さらに非圧縮で配信された信号をいかに綺麗にモニターに映し出すかとか、各地点での音のケアなどアナログ面での配慮も重要ですし、出来限り簡単に使用できるようなフォーマット作りも必要でしょう。

今後も九州を基盤とし、これまで以上のペースでアジア各国に接続先を伸ばしたいと考えています。また同時に九州圏内や国内の主要施設への展開も積極的に進める時期に来ていると感じています。皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

平成 18 年 3 月

九州大学病院 光学医療診療部  
清水周次